

## 短期間のプロジェクト型学習の試み

藤井 達也

### 1. はじめに

外国語教育が文法事項の積み重ねでなく、コミュニケーション能力の獲得のために様々な学習アプローチが考え出されて久しい。また、外国語教育の中で他教科の内容と結びつけたり ICT を活用したりすることにより、問題解決能力やクリティカルシンキングを養い、学習者の生きる力を伸ばし外国語教育の価値をさらに高めようとする動きも大きくなっている。外国語教育に限らないが、筆者の勤務する埼玉県においても、2012 年より「21 世紀型スキル育成研修会」を立ち上げ、「児童生徒が自ら考える思考支援型の授業をめざす“Intel @ Teach”と、児童生徒が互いに学びを深め合う CoREF の協調学習の手法を組み合わせる構築した研修プログラム」を実施している。

### 2. 学校現場のハードル

穴埋めや記号選びで点数を取らせたりする受験のテクニックのための英語教育をしていては、いわゆる 21 世紀型スキルなど、すでにそうでありこれからますます進むグローバル社会において必要と考えられる能力が身につかないということは、産学官民各方面から言われている。しかし現場では、生徒・保護者からの要望(受験に直結している内容をやってほしい)や生徒募集に影響する大学進学の実績に結びつかないことに対する不安などを理由にしてなかなか従来からの路線を変更を出来ないでいる状況は依然として見受けられる。

また、プロジェクト型学習やセマティックユニットを使った授業をやってみたいと考えても、特に必修科目は同一基準で評価すべきという点から、旧来からの中間期末の筆記試験を元に評価することに縛られてしまいがちである。自分が新しい試みをしようとしても学年あるいは科目担当者全員の同意が得られないと実施が難しい。学校現場の評価に対するシステムを基本的なことから大きく見直していくことも同時に求められるといえよう。

加えて筆者が現場で感じるものの一つに「授業時間が足りない」ということがある。

1992年9月から公立小中学校及び高等学校の多くで毎月第2土曜日が、1995年4月からは第2土曜日に加え第4土曜日も休業日となり、2002年度以降、公立学校において学校週5日制となっていた。この間、2000年に、「ハッピーマンデー制度」がつけられ、国民の祝日を、本来の日付から特定の月曜日に移動させ、土・日曜日と合わせて三連休にした。三連休にすれば家族旅行などに行く機会が増え経済が上向くという教育より経済を優先した狙いだった。もともとそれまでも月曜は振替休日や行事の代休日になりやすかったが、ますます月曜授業は少なくなった。ハッピーマンデーによって家族旅行が増えたとも思えない。生徒も教員も部活動に費やす時間は増えただろう。学校週5日制に移行する時の議論も、子どもの興味関心を家庭や地域社会で支え伸ばし、学校の授業だけでは出来ない活動を通して生徒児童の全人格的な発達を養うべき、というようなことが言われたが、実際私たちの社会はどれだけ成熟したであろうか。ハッピーマンデーの経済を優先について一歩譲ったとして効果は検証されたのだろうか。私たちは安易に生徒児童の学習時間を減らしてきたように思えてならない。公立の学校は「国民の祝日」に授業や行事を行うことはできないので、現場の工夫で授業時間を確保するのはとても難しい。自分の子どもに高学歴を望む親たちに公立学校不信を生じさせ、中学校からの私立中高一貫校受験を促す形となり、それを「教育格差」を広げる要因とする見方もある。

話が少々ずれてしまったが、このような現場で感じることを記すことも無意味ではないと思うのでお許しただくとして話をもどすと、上述したように減ってしまった月曜の授業を確保するために、割と減ることの少ない木曜や水曜を月曜授業にして授業時間のバランスをとるということが行われる。そうしなければ、あるクラスのある科目は実施時間が極端に少なく試験範囲まで終わらない、などということが起こるからだ。すると選択科目のように水曜の1・2時限に行われる授業の場合、9月のように文化祭や体育祭など行事が多い月などは、第一週に授業があって、次の授業は第四週まで空いてしまうということも起きる。知識注入型の授業では、ワーク型の宿題を課すなどして知識の定着を図ろうとするのが一般的だろう。プロジェクト型学習を行おうとすると導入段階で時間が空いてしまい、実施に難しさを感じることも多いのではないか。もともとプロジェクト型学習は計画を立てる際に教師としては負担感がとても強い。失敗して生徒に身につくものが少なかったら周りから何を言われるかわからない。他の人と同じようにやって中間期末の点数でスケールに合わせて評価しておいた方が無難だ。もともとそんな雰囲気がある中、2.3週間も空いてしまったら「夏休み明けの授業は文法問題のプリントでもやって次から教科書を進めることにしよう、この間の研修

で聞いたプロジェクト型学習とかいうのも良さそうだけどまた来年考えよう」となってしまふことも多いように思う。来年考えるかというところからわからないが。

以上のように、プロジェクト型学習に対しては、プランの段階で敷居が高く感じること、実施においても同じ科目を持っている先生方と評価方法などで同一歩調をとらねばならないことなどの縛りの問題、学校の予定を見据えたまとまった時間の確保、など実践にブレーキをかけるものが存在している。

### 3. 実践にむけて

現状をふまえた場合、学期に一つ大きなプロジェクトを導入してそれで評価まで考えるのは難しい点が多い。中間・期末といった定期考査も行いながら定期考査では計れない能力・生徒の成果を評価する機会を増やしていくのが現在行っているやすい実践だろう。それには 1) 短期型であること。2) 新たに学ぶことを少なくして既習事項を活用できるもの。3) 授業時間以外の時間を活用できること。などの点を生かされると、教科書中心で行う授業と組み合わせながら実施できるのではないだろうか。そして、このような取り組みは、今後、より大きなプロジェクト型学習を行う場合に生かしていけるようなスキルを紹介していくという役割も期待できる。

#### 3.1 実践例

筆者は2012年度の3年次生の選択科目である「異文化理解中国語」という科目において第2学期の9月第一週、夏休み明け一回目の授業があった後、2.で述べたように三週間時間が空いてしまう状況があった。生徒の学習に対するモチベーションを維持し、授業が空いた時間を有効に使えないかと考えていた時、たまたま勤務校の所在地である伊奈町の住民配布物「ゴミ収集カレンダー」を目にし、そこからゴミ収集カレンダーの中国語版をつくりながら、地域にいる外国人居住者の方たちにもゴミの分別収集について理解してもらうにはどうすべきか、考えるという授業を行った。

#### 3.2 授業の流れ

9月6日(水)

第1時限 1学期から続けている語彙に関する小プリントの後、町の「ゴミ収集カレン

ダー」を示し、これからの課題について説明。9人の講座を3人に分けて班ごとにカレンダーの中国語版をつくり、今後どのようにしたらゴミ出しのマナーがよくなるかをレポートとしてまとめるよう指示。その際には伊奈町の「ゴミ収集カレンダー」を使うが、伊奈町に限定せず各地の自治体でゴミ出しなどのトラブルなどが起きていることを話し自分がその自治体の住民として考えるという趣旨で話した。評価はカレンダーの出来映えと班ごとの発表のわかりやすさ、工夫を総合的に評価することを伝えた。

第2時限 班ごとに話し合いを行い、LL教室に移動しインターネットを使って検索しながらさらにどのようにカレンダーを作るかやレポートの内容について話し合いを続けた。その際検索の工夫などを指導。

9月27日(水)

第1時限 班ごとに発表。ALTの先生に評価してもらおう。

各班の発表が終わった後、他の班のよかったところ、自分の班の反省をそれぞれ述べた。その後でALTから講評してもらおう。その後、ALTから中国のゴミ問題について個人的観点から話してもらおう。わからないことが出てきた場合や質疑応答は出来る範囲で中国語を使って行う。

第2時限 1 学期から続くテキストを使った授業。(『キイ・フレーズで学ぶ新聞中国語』施光亨(著), 王紹新(著), 興水優(監修)東方書店)

### 3.3 生徒の発表

以下は発表した後に提出したレポートである。

#### 伊奈町におけるゴミ問題解決方法について

##### 1班

伊奈町に住んでいる中国人のより多くの方にゴミを分別してもらう問題の解決方法について私は次のように考えた。

それは、中国人に伊奈町の清掃センターを見学してもらおうことだ。ねらいは、ゴミの処理方法を見ていただき、分別する必要性を目で見て知ってもらおうことだ。

そもそもなぜ中国人はゴミを分別しないのか疑問に思うだろう。その理由は、中国ではゴミを分別する概念がない。ゴミを分別せずに捨てている。最近になって、北京市などの大都市

において分別するようになった。だが、北京市にはまだ広範囲の分別収集・運搬のシステムが構築されておらず、せつかく分別しても最終的には同じ場所にたどり着く。そのため、人々は分別しなくなる。分別する意味が分からなくなってしまう。

だから、私はまず中国人にゴミを分別することの意味を教えることが必要だと考える。

ゴミを分別することは、主に環境を保護するためやリサイクルするために実施されていると位置づけられている。実際中国ではゴミがたくさん出てさまざまな被害が起きている。埋立地の拡大、農地土壌の汚染、水質汚染、大気汚染、環境衛生への影響といった問題だ。独立行政法人 JICA 東京は「混ぜればゴミ、でも分ければ資源」と唱えている。ゴミは不要なものではない。ゴミは新たなものになる。でも、分別しなければただのゴミになってしまう。そのようなことを、中国人に教えるべきだ。五感で感じてもらいながら教えるべきだ。

その方法で一番身近に教えられる事柄がある。それは、日本のこの澄んだ空気だ。中国人に「日本の空気は綺麗ですか？」と聞くと大半の人が綺麗だと答えるだろう。日本は清潔で空気が綺麗である理由はゴミを分別しているからだ。有害な物質が発生せず、二酸化炭素も抑えられているため、空気が綺麗である。これは、身をもって感じていただいていることだと思う。

その他にも中国には日本と違ったゴミ事情がある。それは、中国では清掃車が頻繁に来ることだ。日本では月曜日は燃えるゴミ、火曜日には燃えないゴミなど、曜日によって出すゴミが違う。でも中国では分別しない。つまりすぐゴミが集まる。つまり毎日清掃車が来る。このようなゴミ事情があるのだ。

中国人は母国の社会的背景が関係しているためゴミを分別しないのだと思う。これはどうにもならないことだ。国が解決しなければならない問題だ。でも、中国人もきちんと教えて理解したらゴミを分別してくれると思う。伊奈学園総合高校で中国語を勉強している私も何か役にたてたらいいと思う。

私は伊奈町におけるゴミ事情を聞いたとき、伊奈町に住んでいる中国人が増えていることが嬉しかった。中国語選択者として親近感が湧いた。そして解決したいと思った。このような問題があり、きっと伊奈町の方々は中国人を偏見の目で見ている方もいるかもしれない。けれど、中国人は優しいし仲良くすれば心も開いてくれると思う。近所の方々が優しく教えることも必要だと思う。中国人も慣れない地で暮らすことに対して不安に思っているだろうし、そこをフォローして日本の生活を教えていくことを近所の方にやってほしい。

伊奈町のためにも中国語を学んでいる私に何かできることがあるならば協力していきたい。そして一日でも早くこのゴミ問題が解決されることを願っている。

### 1 班作成カレンダーと発表の様子



### 2 班のレポートと発表の様子



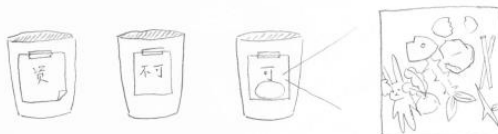
#### ごみの分別を浸透させるための提言

中国からやってきたばかりの人々にとって、特に細かく分別する伊奈町のごみ捨ては難しいものです。私たちは、中国の方にも正しくごみの分別をしてもらうために次のようなことを考えました。

#### 1. あらかじめごみ箱を置いておく

中国から来た人々が住む家にあらかじめ数種類のごみ箱を置き、そこに捨てるものを写真やイラストなどで示すことでわかりやすくする。

(例)



#### 2. デモンストレーションをする

実際に見た方がわかりやすいと思うので、外国から来た人々を集め、その前で実際にごみ袋を用いてデモンストレーションを行う。日本に来たばかりの人々は日本語に不慣れだと思われるので、中国語を用いて行うことが理想。

例えば、いなほ祭に来ていただいてそこで語学系の生徒がそれぞれの言語でデモンストレーションを行うことができれば、中国以外の国から来た人々にも説明ができる。(しかし、今現在、伊奈町に住んでいる外国人 217 人のうち、独語・仏語圏の人がいるかは不明) また、デモンストレーションを語学系の生徒の恒例行事にすれば、一年時から外国の方にごみの分別を教えるというはっきりした目標を持つことができ、学習のモチベーションも上がるのではないだろうか。さらに、学園祭で交流事業についての掲示しか行っていなかった語学系の宣伝にもなり、伊奈町に住む外国の方々との交流も深められると思われる。ネイティブの方との交流を通してよりいっそう自分たちが学んでいる言語に対し関心が深められるのではないだろうか。

#### 3. 外国語版のマニュアルや DVD を作成する

デモンストレーションに來られない人の為に、役所の方で DVD などを作成してもらい、住民登録の際に外国語版のごみ出しマニュアルを配布し、DVD をその場で見せる。(外国語版のマニュアル見本として別紙のポスターを参照)

以上が私たちが考えたごみの分別を浸透させるための案です。伊奈町で学ぶ伊奈学生として、できる限りのお手伝いできたらと思います。

### 中国人住民の方々のゴミ分別問題解決案

3班

(1)リサイクル工場の見学を催す

日本では 1980 年代からゴミの分別が推進されてきましたが、中国ではそもそもゴミを分別する、という習慣がありません。そこでまず中国人の住民の方に対して分別の重要性と方法について説明することが必要不可欠です。そこで、分別されたゴミはその後どうなるのか、実際にリサイクル工場を見学することができれば分別する意味について自分の目で直接確認することができます。同時に、日本のゴミはどのように分別されているか、分別されなかったゴミはその後どうなるかということ説明して、まずは「分別しなければいけない」という意識を持ってもらいたいと思います。

(2)回覧板と一緒に中国語で説明が書かれたゴミ袋をまわしてもらう

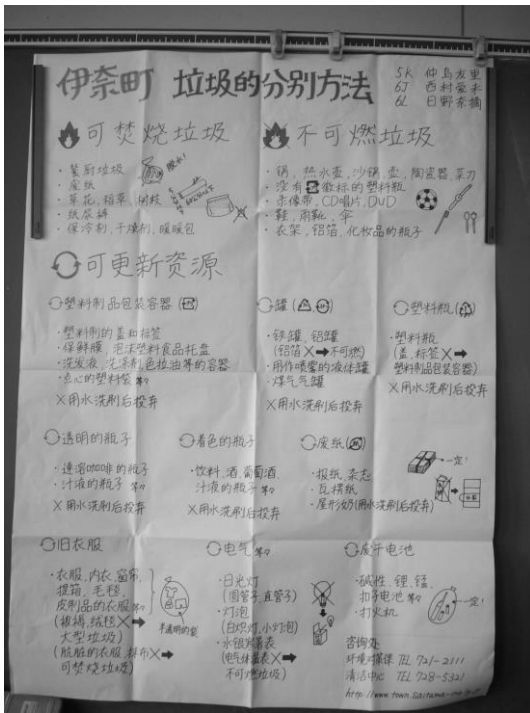
日本のゴミの種類は中国に比べてとても細かく分けられています。そこで、ゴミの種類について細かく書いた説明書を回覧板にはさみ自分が捨てようとしているゴミが何ゴミなのかということを理解してもらいます。次に、ゴミの種類、回収日、分別の際の細かい注意を中国語で書いたゴミ袋を説明書と同時に回してもらうことができれば理解してすぐに実行に移すことができ、ゴミを分別するということを習慣化することができます。

(3)公共の場のゴミ箱にイラストを入れる

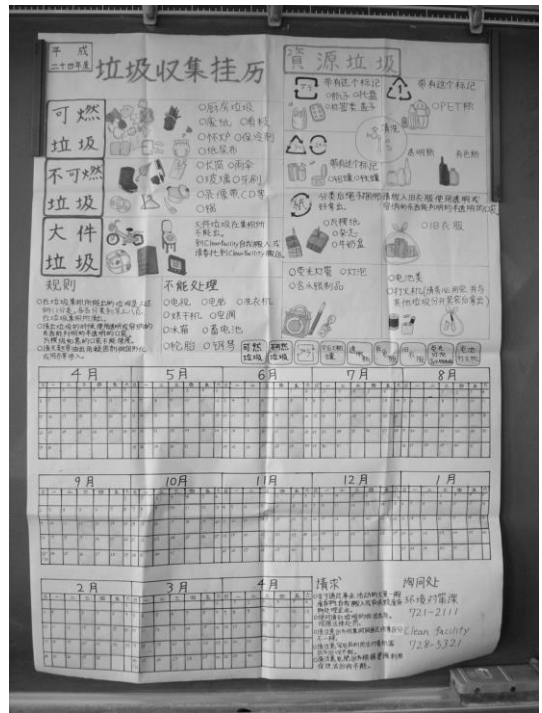
公園やコンビニ、駅などの至るところに当たり前のようにおいてあるゴミ箱。大抵のゴミ箱は日本語で「燃えるゴミ」や「ペットボトル」とだけ書いてあります。私たち日本人はパッと見ただけでそれが何ゴミのゴミ箱かということを理解できますが、日本語が分からない方がそれを見たらどう思うでしょうか。同じゴミ箱が、ただ並べておいてあるようにしか見えないでしょう。そこで、公共の場に置いてあるゴミ箱に、もし日本語がわからない人が見てもすぐに何のゴミ箱か分かるように、ゴミ箱にゴミの種類についてのイラストを描けば言葉が通じずともただでそれが見たら何のゴミ箱か分かり分別に対する抵抗も軽減されると思います。

(4)ネットを利用して気軽に質問できる場を設ける

日本のゴミの分別は日本人の私たちから見ても細く難しいと感じることがあります。そこで気軽にゴミの分別に関して相談できる場が必要だと思うのです。そのために電話の問い合わせだけでなく、ネットの掲示板などで質問の場を設ければ、気軽に相談できると思います。また、掲示板ならだれでも見ることができるので同じ疑問を持った人がいたときにそれに対する回答を共有することができ、多くの人が効率的に分別に関する疑問を解決できると思います。



2 班作成カレンダー



3 班作成カレンダー

### 3.4 発表を終えて

想像していたよりも生徒たちは積極的に連絡を取り合い放課後など時間をとって協力してカレンダーを完成させた。インターネット検索により全国各地の地方自治体のゴミ収集に関するページを見つけ、また見つけたサイトの中文版がある場合はうまく活用したようだ。カレンダーのできについては発表後の発言で見やすさ、わかりやすさなどについて各班から言及があった。こうした生徒たちの振り返りや他の班の発表に対する評価は日本語で行ったものだが、自分の考えや感想を話すという訓練は様々な機会においてできるだけ行われるべきであると思う。普段、「やばっ」、「すごっ」など単語ともつかない感嘆詞で表現してしまっていることを我々はもっと憂えるべきであり、日頃から言語環境を整えるよう努力するべきであろう。

発表の中やレポートにおいて引用が不適切な箇所や実現性などにおいて少々疑問なところもないわけではないが、生徒たちが自分で考えたことが随所に読み取れる。日本も 70 年代 80 年代は分別などしておらず、まとめてみな埋め立てていたこと



を例にとり、日本も今までの過程を経て分別をするようになったと客観的に日本社会を見直しパースペクティブな視点を持ち改善策を話す流れを持つ班もあった。ある事象について、決めつけた見方をするのではなく、原因理由を探り解決策を求めていこうとする態度を培うことにつながると思われる。

また中国のゴミ収集事情を調べて中国人の立場で日本に住むことを見直しているプロセスもあり自分たちで考えることを通して多層的な見方が生じている。自分たちに出来ることとして学園祭で他の言語を学習している生徒(勤務校は英語の他にドイツ語とフランス語の講座がある)と共同してデモンストレーションを行うという案も示され、自分たちの社会参画意識や学んでいる言語を生かしていきたいという欲求も見える。

#### 4.1 整理と発展

今回の実践をさらに実際に中国人居住者の方に説明する機会も設定し、コミュニケーション能力と学習シナリオを中心に表にしてまとめたものが、以下である。

授業時間をさらに使って中国語による口頭説明を使う場面を盛り込めば言語のコミュニケーションモードを増やすことが出来る。また評価については表の後にグループ評価ルーブリックを示した。今回 ALT の先生に簡単に講評していただいた後順位付けをただけであったが、事前にこのルーブリックを示し、努力すべき点をはっきり認識させることも出来る。

<b>伊奈町のゴミ収集のマナーアップを推進しよう。</b>	
<b>■コミュニケーション能力目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ゴミ収集カレンダー」中国語版を作成できる。</li> <li>・(できれば、)ゴミ出しのルールを口頭で説明できる。</li> </ul> 2単位 ×2週 (間に休日があり2週分空いた) 計4時間
<b>■学習シナリオ</b>	ある日伊奈町(埼玉県北足立郡)町役場の環境対策課とクリーンセンターの担当者が、町内にある県立伊奈学園総合高等学校の校長室を訪れ、現在町民に配布されている「ゴミ収集カレンダー」を指し示しながら、生徒達に「ゴミ収集～」の中国語版を作り、さらにゴミ収集のマナーアップを図るアイデアを出してもらいたいことを要請した。 話を受けた中国語担当教諭は、「異文化理解中国語」という選択科目を履修している生徒たちに、この問題はこの町だけでなくいろいろな自治体で起きているであろう人々の間に不信感・誤解等をもたらす大きな問題としてとらえ、マナーアップのためにどのように考えるべきではないかと、投げかけた。生徒達は班ごとに「ゴミ収集カレンダー」の中国語版を作成し、住民に説明できる準備をする。各班はできあがった「カレンダー」を見せながら、ゴミ分別問題に対する提言書を発表し合う。各班の良い箇所を取り入れながら提言書をまとめ、町の担当部署に提出する。

■能力指標 <sup>1</sup>	<p>7. 地域社会と世界(中国語)レベル2</p> <p>2-1. 自分たちの住んでいる町や都市について紹介する簡単な資料(位置、都市・農村、産物、人口などの特徴など)を作ることができる。</p> <p>2-2. 自分の住んでいる町や都市について思っていること(いいところや不便なところなど)について話すことができる。</p> <p>2-3. 中国の首都や主な都市の地図上の位置を言うことができる。</p> <p>2-4. 日本や中国の特徴(面積、人口など)を口頭で説明できる。</p> <p>2-5. 日本や中国の有名人や物事について名前や特徴(何をした人か/いつ建てられたかなど)を口頭または文章で紹介できる。</p> <p>2-6. 身近な社会制度(免許取得・飲酒・喫煙・結婚などができる年齢)について会話できる。</p> <p>2-7. 最近、気になる世界のニュース(どこで何があったか)についてやりとりできる。</p>
■言語プレ活動	<p>1. 中国の書面語の表記</p> <p>1.1 公共機関が人々に指示する表現</p> <p>1.2 日本の自治体のホームページなどの「中文」の表現</p> <p>1.3 下書きのネーティブチェック</p> <p>2. 資料を提示しながら説明する。</p> <p>2.1 多くの人の前で話す時の始まり、終わりの挨拶。</p> <p>2.2 「燃えるゴミは何曜日に出します。」のような表現</p> <p>2.3 「～しないでください。」</p> <p>3. インタビューのペア練習。</p> <p>3.1 「～は燃えるゴミですか」「～はプラスチックに分類して下さい」などの表現</p> <p>3.2 「分からないことはありますか」の答えとして予想される質問をリストアップ</p>
■文化事象例	<p>中国の地域活動との違い ゴミに対する考え方 経済成長期の自国の状況</p>
■文化事象例の着目点	<p>日本の自治会・町内会の役割</p>
■21世紀のスキル	<p>・コミュニケーションストラテジー ・問題解決 ・高度な思考力(認知、内省、分析等) ・創造性 ・情報処理 ・テクノロジー(IT操作) ・協働作業</p>
■他教科、教室外との連携	<p>町役場環境対策課 クリーンセンター 情報 美術 政治経済</p>
■総括的評価	<p>・「伊奈町ゴミ収集カレンダー」中国語版</p> <p>・上記カレンダーを使った住民への説明</p> <p>・各班の町の担当部署への提言書</p> <p>【形成的評価】</p> <p>・カレンダーに使う語句の確認</p> <p>・上記語句を使ったロールプレイ</p> <p>・「ゴミ収集カレンダー」を使ったリハーサル</p>
■今回の実践のメリット	<p>・身近な問題で取り組みやすい。</p> <p>・インターネットなどを使って自分で調べやすい。日本語で発表する部分は誰でもできる。</p> <p>・時間があれば、ゴミの出し方について中国人に対面で話させるなど拡張・発展させられる。</p> <p>・実際の社会にコミットした達成感がある。</p>

<sup>1</sup> 表中の「能力指標」は国際文化フォーラム(2012)『外国語学習のめやすー高等学校の中国語と韓国語教育からの提言ー』による。これらのことができれば課題を行うことができるというコミュニケーション能力の目安である。

## グループ評価ルーブリック

A 班		よくできている	できている	がんばった	もう少しがんばろう
「ゴミ収集カレンダー」について (言語)	適切な語句を多く活用しているか。	○			
	評価基準	学んだ表現を取り入れ、効果的にアレンジして取り入れている	学んだ表現を取り入れ、使うべきところで正しく取り入れている	学んだ表現を取り入れている	学んだ表現を取り入れていない、または間違った使い方をしている。
提言書の内容について(文化・社会)	一方的でない多角的な視点から提言を行っているか。		○		
	評価基準	広く事象について調べ多面的に考察しており説得力がある。	事象について複数の視点から考察がなされている。	具体的な提言がある。	提言の内容がわかりにくい。
発表のパフォーマンス(日本語による発表能力)	聞き手にとってわかりやすく、言いたいことがはっきりしている発表となっているか。			○	
	評価基準	得た知識や自分で学んだことを効果的に多く取り入れわかりやすく工夫して発表している。	得られた情報をまとめて発表することに工夫が見られる。	得た情報を学んだことを正しくわかりやすく伝えている。	取り入れた情報の中に正しくないものがある。
中国語のスキル	流暢さ・発音・発話全体のまとまり		○		
	評価基準	自然な中国語のスピードで感情表現もある。	人物の立場に立って表現している。	正しい声調・発音である。	声調や発音に聞き取りにくいところがある。

#### 4. 短期型プロジェクトのメリット

短期型プロジェクト学習における教師の側のメリットは先に述べたとおりだが、生徒にとっても短い期間だからこそ放課後の時間も使って集中的に取り組めたということもあるようだ。

今回得たスキル、たとえば検索時の工夫や提出レポートは添付ファイルで教師に送ること、中国語をコンピュータに入力することなどは今後別のプロジェクト型学習を実施する際にも生かすことが出来る。

また、小さなプロジェクトだからといってそれで完結するわけではなく、これにつなげて全体として大きなプロジェクト型学習としていくこともできるだろう。このような小さなプロジェクト型学習をモジュールとしてストックしておくことは大きな財産になるし、最初から大きな長期的なプロジェクト型学習をつくるよりも作るコツを得やすい面もあるように思う。要はまずやってみることが大事で、それは何よりも生徒の考える力、生きる力を引き出すことが大事なのだ。卒業前の授業に対するアンケートを見ても生徒たちにとって印象深いものとして取り上げられ、「班で役割を分担して協力することができた」「他の班の色々な意見を聞けて考えが深まった」などの記述があり、授業スタイルも肯定的に受け取られていることがわかった。

Short-Term Project-based Learning  
for Japanese High School Chinese Learners

Tatsuya FUJII

In order to implement project-based learning in Japanese public high schools, projects, which can be completed in relatively short periods (about a month), may be suitable to overcome various constraints including current school calendar problems. This paper presents a short-term effective practice method, in which the learners of Chinese enhanced their linguistic capabilities, research skills, and critical thinking by creating a Garbage Sorting Guide in Chinese for local Chinese residents, who are not familiar with the city's trash collection rules.